

本時のねらい

「すがたをかえる大豆」の学習について、内容を改めて整理することで、学習を振り返るとともに、次時の学習への見通しを持たせる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

ロイロノートのシンキングツール（イメージマップ）を活用し、1枚のカードに大豆の加工の工夫と加工後の食品のつながりを改めて整理することで、それとの関連性がとらえやすくなることをねらいとした。また、次時に行う活動へのつながりも意識した。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・Chromebook ・授業支援ソフト（ロイロノート） ・プロジェクター

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートを見ながら前時に学習した内容を確認する。 ・ロイロノートでシンキングツール（イメージマップ）の使い方を復習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員用端末をプロジェクターで投影し、イメージマップの使い方を確認する。
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな工夫があると、大豆から違う食品になるのかをイメージマップを用いて整理する。 (作成したイメージマップはロイロノート内で提出する。) ・まとめたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までのノートや教科書の本文を見返ししながら、ロイロノートのイメージマップを活用して、「いる」「にる」などの工夫や、「豆腐」「きなこ」などの食品を表す言葉を書き込んでいく。 ・打ち込み後、並び替えを行い、関連する言葉同士を線で繋ぐ。 ・ローマ字入力に時間がかかる場合は、手書き入力機能を活用するように伝える。 ・発表する児童のイメージマップをプロジェクターで投影する。 ・前に投影したものが見えにくい児童がいることも考慮し、画面配信の機能を用いて、前に投影したものと同じものが児童の端末でも見られるようにする。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り ・次の活動として、主となる材料をかえてイメージマップをつくることを予告する。 	

1人1台端末を活用した活動の様子

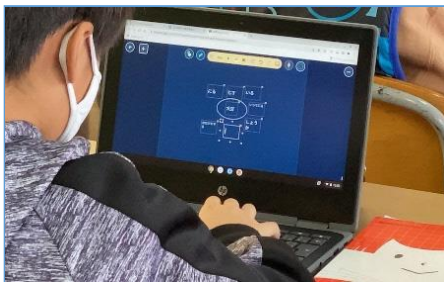


写真1：ロイロノートを使い、イメージマップに書きこんでいる場面

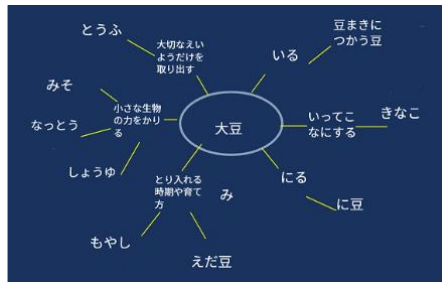


写真2：児童が作成したイメージマップ

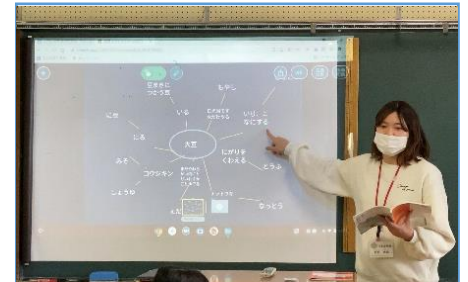


写真3：プロジェクターで児童が提出したイメージマップを投影し、良い部分を紹介している場面

児童生徒の反応や変容

- ・「すがたをかえる大豆」の「おいしく食べる工夫や食品の例」を、イメージマップを活用して整理することで、学習したことを振り返り、まとめることができていた。また、次時で行う、自分で食材を選んでイメージマップを作成する活動への見通しを持つことができた。
- ・それぞれが作成したイメージマップを全員で共有することで、自分の端末で他の児童のものと比較することができるので、自分と似ているところや違うところ、まとめ方が上手なところなどに多くのことに気付くことができていた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・ロイロノートを用いて学習内容を整理していくことにより、修正や書き直しをする際に、すべて消して書き直す必要がなく、必要な部分だけ編集（並べ替えや削除、書き足しなど）を行えるので、容易に試行錯誤することができていた。
- ・イメージマップで「おいしく食べる工夫や食品の例」を整理することで、文章が書きやすくなると考え、次時の活動の練習も兼ねて「すがたをかえる大豆」で学習したことをイメージマップに整理した。これにより、次時の活動では、自分が調べた材料についてスムーズにイメージマップを作成することができた。